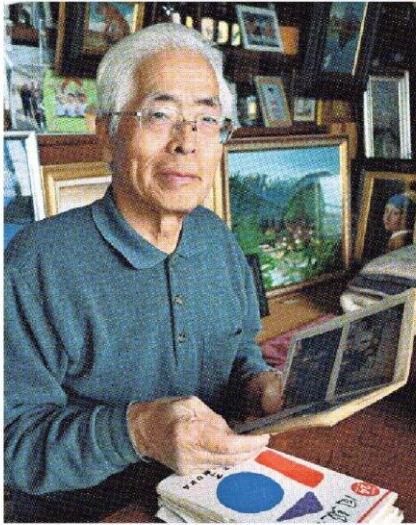




アルバムに収められた中坪キミ子さんの写真を手にする息子の勇成さん＝11月、富山市

今年8月、イタイイタイ病の生存する唯一の認定患者だった93歳の女性が亡くなった。水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそくを含む四大公害病のうち、存命する患者がゼロになるのは初めて。女性は富山市の中坪キミ子さん。息子の勇成さん(74)が共同通信の取材に応じ、初めて名前を明かし「半世紀にわたる痛み、苦しみは本当に想像を絶する」と語った。

キミ子さんは1930年、神通川のほとりの農村で生まれた。小さい頃から農業を手伝い、草むしりが得意で地区の賞状をもらった。川の水は田んぼに流れ、

想像絶する母の痛み

患者遺族「苦しみ知って」 名前公表

農作業の合間に飲みもした。「きれいな水だと思っていた」。後年、キミ子さんは話したという。

40歳ごろ、異変が起きた。立つと足や膝が痛んだ。疲れやすく「寝ても取れない」とこぼしたが、周囲がイタイイタイ病を疑うことはなかった。

2019年ごろ、雪かき中に転び、エックス線写真を撮ったところ、太ももなど複数の骨にひびが入っていることが分かった。診察した萩野病院(富山市)の青島恵子院長は「おそらく何十年も我慢してきたのではないか」と指摘した。

その後、骨盤を折り、入院を繰り返した。「こんなに痛いなら死んだ方がましだ」と漏らすことも。青島院長らの勧めもあり、22年に91歳でイタイイタイ病の患者認定を受けた。症状が現れ50年以上たっていた。晩年まで痛みを抱えたが、調子が良い日はコーラスグループで歌い、自宅の草むしりをした。今年8月11日、猛暑を避けるため入院していた病院で体調を崩し、亡くなった。勇成さんによると、安らかな死に顔だった。

生前、報道機関の取材を受け「まさか病気になるのは」と語ったが、名前公表は非公表とした。勇成さんは声を絞り「骨一本折れても耐えがたい。母と同じような人がまだいるかもしれない」と支援を求めた。

むずかしい漢字とことば

イタイイタイ病＝大正～昭和20年代にかけて富山県の神通川流域(じん・づう・がわ・りゅう・いき)で起きた公害病。鉱山(こう・ざん)から流れ出たカドミウムという金属(きん・ぞく)が農地や川を汚染(お・せん)。飲み水やコメなどを通じて体内にたまり、患者(かん・じや)は腎臓障害(じん・ぞう・しょう・がい)や骨(ほね)がもろくなるなどの症状(しょう・じょう)に苦しんだ。

生存(せい・ぞん) 唯一(ゆい・いつ) 認定(にん・てい) 歳(さい)

亡(な)くなった

水俣病(みな・また・びょう)

含(ふく)む 存命(ぞん・めい)

痛(いた)み 頃(ころ)

異変(い・へん) 膝(ひざ)

疲(つか)れ 寝(ね)て

疑(うたが)う 撮(と)った

診察(しん・さつ) 我慢(が・まん)

指摘(し・てき)

骨盤(こつ・ばん)＝おしりや腰(こし)まわりを支える骨格(こつ・かく)。

入退院(にゅう・たい・いん)

繰(くり)返(かえ)し

漏(も)らす＝こっそり人に知らせる。思っていることを口に出す。

勧(すす)め 晩年(ばん・ねん)

抱(かか)え 自宅(じ・たく)

猛暑(もう・しょ) 避(さ)ける

崩(くず)し 発展(はつ・てん)

恐(おそ)れ 企業(き・ぎょう)

救済(きゅう・さい)

裾野(すそ・の)を広げる＝ある活動や共同体に参加する人を増やす。

絞(しぼ)り 耐(た)え

支援(し・えん)



【問1】 93 歳で亡くなった女性は、何の認定患者だったのでしょうか。

イタイイタイ病

【問2】 四大公害病を四つすべて挙げましょう。

水俣病, 新潟水俣病, 四日市ぜんそく, イタイイタイ病

【問3】 四大公害病のうち、存命する方は何人いるのでしょうか。

いない(ゼロ)

【問4】 亡くなった中坪キミ子さんは、どんなところで生まれたのでしょうか。10 字で抜き出しましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

神通川のほとりの農村

【調べてみよう】 四大公害病について、くわしく調べてみよう。